

食用海藻養殖試験 (要 約)

佐藤 康子・木村 博聲

ツルアラメ、フサイワズタは青森県日本海沿岸の地域で食されている。両種の安定生産を目的に、深浦町北金ヶ沢地先の静穏域において養殖を試みた。

調 査 方 法

1 ツルアラメ

平成14年6月15日、北金ヶ沢港内水深5m前後でツルアラメを採取し、静穏域内の水深1.5mに設置した延縄式養殖施設の幹綱の長さ約10mに計17kgの藻体の匍匐枝部分を結着し、養殖を開始した。その後、月ごとに生育状況を観察するとともに、平成15年2月から5月には、毎月幹綱に生育する藻体の葉状部を採取し、幹綱1mあたりに生育する重量(収量)を測定した。また、平成15年5月21日、上記と同様に幹綱の長さ約10mに20kgの藻体を結着して養殖を開始し、その後の生育状況を毎月観察した。

2 フサイワズタ

平成14年6月15日に、鱸作漁港内からフサイワズタを採取し、5段式丸籠の底面に固定したタキロンネット(N-523)に各段200g、計1kgの藻体を結着後、前述の延縄式養殖施設の幹綱部分に垂下し、平成15年10月まで毎月葉長を測定した。また、養殖の開始と同時にタキロンネットに藻体を結着し、増養殖研究所内の150ℓ水槽中で濾過海水をかけ流しながら通気培養した。その後、平成15年6月にかけて毎月葉長、葉重量を測定した。

結果および考察

1 ツルアラメ

平成14年6月から養成を開始した藻体は、10月には泥やヒドロ虫が付着し、末枯れしたが、匍匐枝から発出した新葉が生長したため、平成15年2月には収量は309.5g/mとなった。さらに、4月には同2664.6g/mとなり、最大となった。平成15年5月から養成を開始した藻体は、8月にはほとんどの葉が末枯れしたが、匍匐枝から新葉が生長した。翌年2月には、収量は240.8g/mとなったが、波浪による脱落が著しかった。

このことから、5、6月に沖出したツルアラメ藻体は、秋以降新葉が生長し、2月以降収穫できるようになると考えられた。なお、今後耐波性に優れた養殖方法について検討する予定である。

2 フサイワズタ

平成14年6月に養殖を開始した藻体の葉長は、2ヶ月後の8月に5.8cmと最大になり、養殖開始時の153%に増加した。しかし、10月から翌年4月までの期間は、藻体への泥や付着生物が著しくなったた

め、殆ど生長しなかった。5月には新たに伸長した藻体部分が認められたものの、10月までに全て流失した。

水槽中の藻体は、培養開始時の葉長が3.0cmであったが、1か月後の7月には7.4cmに伸長した。また、8月には葉重量が培養開始時の197%に増加した。しかし、その後、藻体が枯死したため、11月には葉長は2.1cmまで減少し、翌年4月には匍匐茎を残すのみとなり、6月には全て流失した。

このことから、フサイワズタは、春季に養殖を開始し、夏季までであれば食用として収穫できることがわかった。しかし、10月以降は付着物によって生長が妨げられると共に、冬期には伸長しないため、食用には適さなくなると考えられた。